

ビスサインを適正にご使用いただくために

ビスサイン調製と投与に関する注意点

体表面積 (BSA) と投与量の計算

- 標準ノモグラムや、公式又は計算尺を使用し、患者さんの身長・体重から体表面積を算出する。
- $BSA = W^{0.425} \times H^{0.725} \times 71.84$ (W:体重kg, H:身長cm)

ビスサイン投与量の計算

- ビスサイン総投与量 = $6\text{mg}/\text{m}^2 \times BSA$
- ビスサイン総投与量 $\div 2.0\text{mg}/\text{mL}$ = ビスサイン溶液*の必要量 (mL)
*ビスサインを7mLの目薬「注射用水」で溶解した7.5mLの溶液
- $30\text{mL} - \text{ビスサイン溶液の必要量 (mL)}$ = 日局ブドウ糖注射液 (5%) の必要量 (mL)

調製を始める際の注意点

- 調製及び投与は室内光下で行って構わない。
- 調製時又は投与時に、薬液が眼や手などの皮膚に触れないよう十分に注意すること。
(プラスチック手袋などを着用して作業すること)
- 薬液がこぼれた場合は雑巾等で拭き取る。その際、薬液が皮膚や眼につかないように注意する。

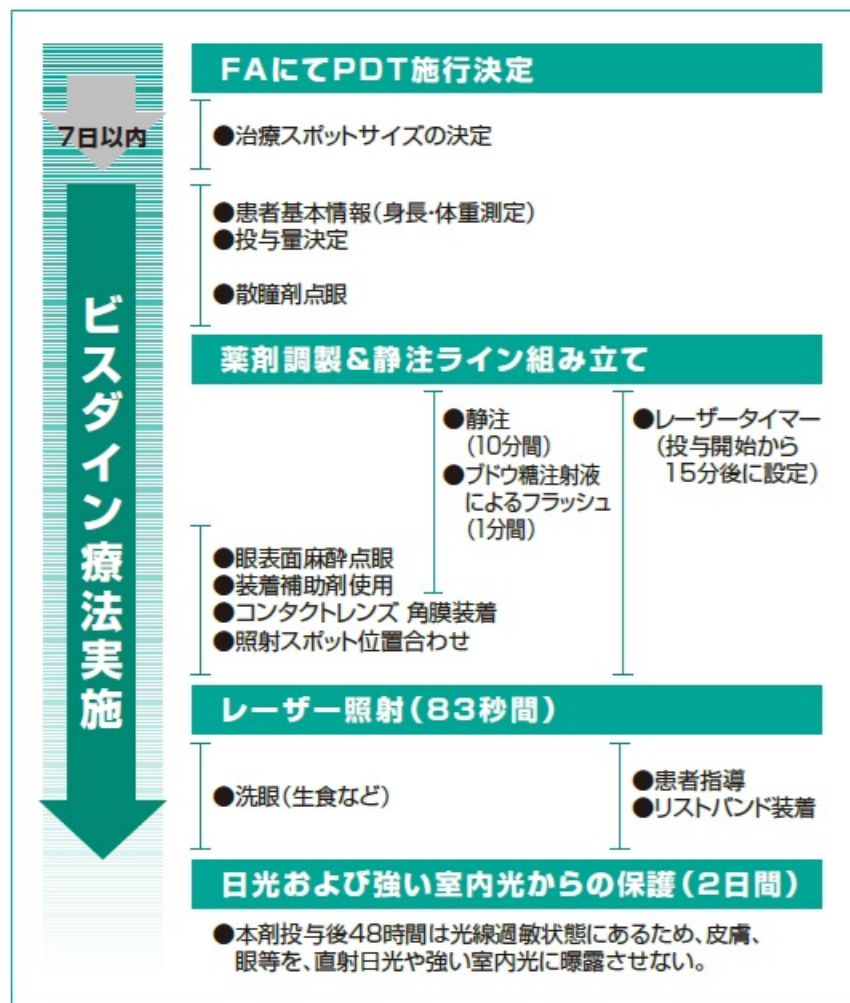
用具に関して

- インフュージョンラインフィルターは、 $1.2\mu\text{m}$ を推奨。
ポアサイズが $0.6\mu\text{m}$ 以下ではビスサイン自体が詰まるため、使用しない。
- Y字チューブは、シリンジポンプ停止後ライン内に残ったビスサイン静脈内注射液を、フラッシュするために用いる。
- 三方活栓は、ライン内のエア抜き及びショックや治療中気分が悪くなった時などに備え、静脈ラインを確保するために用いる。
- フラッシュは5mLで行うため、静注ラインの総容量は5mL以内になるようにする。
- 30mLシリンジは、使用するシリンジポンプ指定のものを使用する。

調製時の留意点

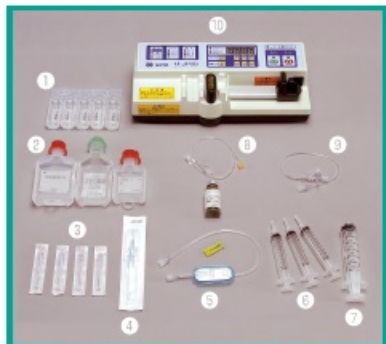
- 日局「注射用水」を加えた後は、バイアルを強く振らないこと。
(強く振ると気泡が多くなり、エア抜きに手間がかかる)
- 一度に複数のビスサインを調製する際は、患者名明記シール(チェブラファームで配布)などを用いて、薬液の取り違えを回避する。
- 調製後、やむなく保管する際は、シリンジをアルミホイルなどで遮光する。
(溶解後、4時間以内に使用すること)

治療の流れ(検査から実施まで)



加齢関連性認知症治療薬(光線力学的療法用製剤)
ビスサイン® 静注用 15mg

ビスサイン調製&投与方法



必要な用具一覧

- ① 日局注射用水(7mL)
- ② 日局ブドウ糖注射液(5%)
- ③ 注射針
- ④ 静脈内留置針
- ⑤ インフュージョン・ラインフィルター(1.2μm)
- ⑥ シリンジ(10mL)3本
- ⑦ シリンジ(30mL)1本
- ⑧ Y字チューブ
- ⑨ 三方活栓付延長チューブ
- ⑩ シリンジポンプ



本剤1バイアルに日局注射用水7mLを加える。



完全に溶解するまでバイアルを軽く振る。



バイアルからビスサイン溶液を必要量抜き取る。



30mLシリンジで日局ブドウ糖注射液(5%)を必要量抜き取る。



2つのシリンジの内容量を確認する。



2つのシリンジを混合し、総量30mLの静脈内注射液を完成させる。



静注ラインを組み立てる。



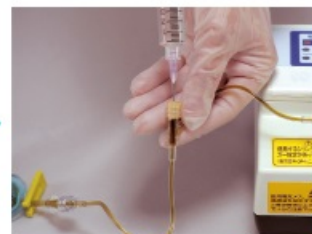
静注ラインを日局ブドウ糖注射液(5%)で満たす。



投与は前肘静脈を選択する。必ず逆血を確認する。



ビスサイン静脈内注射液をシリンジポンプにセットし、シリンジポンプをスタートさせ、10分間(3mL/分)かけて静脈内に投与する。



シリンジポンプ停止後、5mLの日局ブドウ糖注射液(5%)で1分間かけてフラッシュする。

